



中部の

エネルギーを 築いた人々

福沢桃介生誕150年記念⑤

岐阜県博物館の明治150年・福沢桃介生誕150年記念展

諭吉から桃介へ～日本近代化の軌跡～

明治150年・福沢桃介生誕150年記念展「諭吉から桃介へ～日本近代化の軌跡～」が2018(平成30)年6月9日から7月16日まで岐阜県博物館で開催された。

展示会場には140点に及び展示品を通して、福沢諭吉から桃介へ父子二代にわたる祖国の近代化と日本の電力王と言われる桃介の木曾川の電源開発を支えた川上貞奴の業績を解説している。

今月号は14項目にわたる展示概要と主な展示品、また、今回の展示会の監修と解説パネル分執筆に当たった藤本尚子さんが作詞した桃介・貞奴の歌「水の灯」を紹介する。

福沢諭吉の水力発電への着眼

福沢諭吉は、1893(明治26)年5月13日、時事新報の水力利用の中で、「近来欧米諸国において理学的知識の大に進歩せるはいまさら言うまでもなきことながら、ことに電気学は目下まさに発生¹の真最中にして、その進歩の速なるは他の学問の及ぶところにあらず。…電気の媒介によりて動力を遠距離に送達する方法これなり。人間の利用しうべき源は石炭の勢力のみに非ず、他に一大源力の存するあり、水力即ち是なり。…わが国は天然資源が少ないと言うが、気をつけてみれば山高く、水多く、水力発電で電気を起こすには絶

好の条件にある。」と水力発電による産業の興隆を提唱した。

ここでは、坂本浩一氏所蔵の「西洋事情」、「学問のすゝめ」、「文明論之概略」の代表三部作などを展示し

- 1 福沢諭吉と中津奥平藩
- 2 鎖国の破たん²と政変の予兆
- 3 日米通商条約と蒸気コルベット「威臨丸」の奇跡

の3パネル(1～3)で福沢諭吉の思考を解説している。

福沢桃介の実業界入りから政友会で1期の国会議員

川越の麒麟児と呼ばれた青少年時代、慶應義塾での福沢諭吉の薫陶から2女・房との養子縁組、川上貞奴との出会い、米国留学、北海道炭鉱汽船から実業界へ、丸三商会の失敗、韋駄天の桃さんと呼ばれた兜町の飛将軍、政友会の国会議員としての活躍までを9パネル(4～13)で展示している。

- 4 岩崎桃介を輩出した川越藩の幕末
- 5 福沢桃介(旧姓岩崎)の生涯

- 6 慶応時代の桃介
- 7 桃介・小奴(後の貞奴)の悲恋と大日本帝国憲法
- 8 桃介アメリカ留学
- 9 北海道炭鉱鉄道
- 10 桃介の自営業
- 11 桃介神話の始まり
- 12 「憲政擁護」と国会議員桃介の誕生

日本の電力王の道歩む

福沢桃介は名古屋電灯(株)から電力王への道を歩み始め、木曾川に日本初のダム式大井発電所を完工させた。桃介が電源開発に全精力を注いだ時に、それを支えた川上貞奴を紹介している。

- 13 名古屋電灯から大同グループ創立へ
- 14 祖国愛と人道主義

(参考) 福沢桃介が携わった中部の企業

福沢桃介が木曾川の発電所を建設するとともに、その電力を活用するために電気製鉄製鋼、化学工業など電力多消費型産業を興し、現在の中部圏の基礎を築いた。

(1) 中部電力株式会社

名古屋電灯の取締役社長に1914(大正3)年から1921(大正10)年まで就任した。その後、名古屋電灯は関西電気、東邦電力、中部配電を経て1951(昭和26)年に中部電力に継承した。

(2) 大同特殊鋼株式会社

1917(大正5)年に(株)電気製鋼所を設立し取締役社長に就任した。その後、電気製鋼所は大同製鋼(株)、(株)大同電気製鋼所などを経て、1976(昭和51)年、日本特殊鋼などを吸収合併し大同特殊鋼(株)に改称した。

(3) 名古屋鉄道株式会社

1912(明治45)年に開業(大野～伝馬町間)した愛知電気鉄道の藍川清成に依頼されて1914(大正3)年に取締役社長に就任した。桃介は「東京大阪間高速度電車構想」(当初は神宮前～豊橋間)を企画していたので、1919(大正8)年に東海道電気鉄道を設立し、取締役社長に就任した。しかしこの構想は時期尚早でとん挫し、1922(大正11)年に両社が合併し

桃介は辞任した。

1935(昭和10)年に愛知電気鉄道(豊橋～神宮前間)、と名岐鉄道(岐阜～名古屋間)が合併し、名古屋鉄道が創立され現在に至る。

(4) 東亜合成株式会社

福沢桃介の長男福沢駒吉が取締役社長を勤めていた東海曹達(昭和5年に設立)、昭和曹達(昭和3年に設立)、矢作工業(昭和8年に設立)の3社が1944(昭和19)年に統合し、東亜合成化学工業(株)に商標変更した。その後、創立50周年を機に商号を東亜合成株式会社に変更した。

(5) 東海カーボン株式会社

1918(大正7)年に東海電極製造株式会社が設立され寒川恒貞が取締役社長、福沢桃介が相談役に就任し、製鋼用電極および電解ソーダ用電解版を製造した。1975(昭和50)年総合カーボンメーカーとして東海カーボン(株)に社名を変更した。

(6) 東邦ガス株式会社

東邦電力は1907(明治40)年に設立された名古屋瓦斯を1922(大正11)年に吸収合併し、ガス事業部門を独立させ、ガス事業専門の会社として東邦ガスを設立した。

(7) 矢作製鉄株式会社

矢作製鉄は1938(昭和13)年設立された。福沢桃介が名古屋で創立した最後の会社で、矢作工業の硫酸製造過程で発生する硫酸滓が鉄分を多量に含有することから鉄源として電気製鉄を企業化したものである。1961(昭和36)年に高炉を建設し発展したが需要が伸びず1998(平成10)年に破産した。

福沢桃介生誕150周年記念シンポジウムと桃介と貞奴の歌「水の灯」

展示期間中の7月7日(土)、福沢桃介生誕150周年記念シンポジウム(主催：ユネスコクラブ日本ライン、共催：三田会多治見支部)が開催された。当初、岐阜県博物館ホールで計画されたが、当日、岐阜県内に大雨警報が発令されたため、急遽川上貞奴が1933(昭和8)年に開創した「成田山貞照寺」本堂に会場を変え展開された。さらに、川上貞奴の別荘として建立された「萬松園」を視察し終了した。萬松園は1929(昭和4)年に竣工され、当時は貞照寺と一体不二のコンセプトで設計され、それぞれ登録有形文化財に指定されている。

水の灯 作詞：藤本尚子、作曲：中谷 馨

- 1 木曾の川風 裳裾を翻し 水の行方に 思いを馳せりや
異国の夢の走馬燈 心急くのは祖国の未来
闇夜をてらす 水の灯よ
- 2 読書村の 初雪の朝 寄り添いつつも 遠くのあなた
昔の恋の水模様 うら若き日の涙の別れ
ふたりふたび 水の灯よ
- 3 命賭けます あなたの夢に 想いこらえて いちずな仕事
男伊達なら堰き止めて 荒ぶる木曾の水神様に
ふたりで祈る 水の灯よ

このシンポジウムには特別ゲストとして、桃介・貞奴をテーマにしたデュエット曲「水の灯」の作曲者中谷 馨さんと歌手の安田 緑さんが特別出演しお披露目した。なおこの歌は今秋リリースされる予定である。

岐阜県博物館と展示ブースの内容

岐阜県博物館の案内と今回の展示会を4ブースに分け展示された展示品、書籍などの諸資料を紹介する。

1 岐阜県博物館

1975(昭和50)年に岐阜県置県100周年記念として岐阜県百年公園が開設され、園内に岐阜県初の総合博物館として翌年の5月に開

館した。

- ① 所在地：岐阜県関市小屋名1966
- ② 特徴：園内の広さは100ha、美濃地方平野部の「水の国」と飛騨地方の「山の国」の姿を自然・人文両分野にわたる13万点の収蔵資料の中から展示している。

2 各ブースの概要

Ⅱのブース

福沢諭吉肖像画(複製)、独立自尊扁額、病学



(筆者撮影)



(筆者撮影)

通論(緒方洪庵著)、その他多数の書籍を展示。

㊦のブース

福沢桃介胸像、三芳野天神祭文願扁額(川越氷川神社蔵・川越市立博物館寄託の岩崎桃介12歳時の奉納文)、マダム貞奴世界に舞った芸者(レズリー・ダウン著)やペーター・パンツァーの貞奴研究書など多数の書籍を展示



(筆者撮影)

㊦のブース

「大利万物能成百事」扁額(山縣有朋筆の扁額・成田山貞照寺蔵)、大同電力木曾川発電所鳥瞰図複製(吉田初三郎作で関西電力東海支社蔵)、大洞山荘で使用していた大同マーク入りの洋食器(福沢桃介記念館蔵)、旧川上貞奴



(筆者撮影)

邸復元工事報告書(文化のみち二葉館蔵)、木曾川水系発電所マップパネル(でんきの科学館蔵)、萬松園鉄製瓦(株式会社創寫館蔵)などを展示

㊦のブース

「水燃而火雷動而風」(複製)(福沢桃介筆の扁額で中部電力株式会社蔵)、福沢桃介墓所の写真(藤本尚子蔵)などを始め、岐阜県図書館、愛知大学中部地方産業研究所、大同特殊鋼株式会社、名古屋鉄道株式会社、日清紡ホールディングス株式会社などが所蔵している書籍を多数展示



(筆者撮影)

㊦ 展示ガラスケースに新発見された桃介の著書

今回の展示会で特筆すべきは、会場内の独立したガラスケース内に、かつて西園寺図書として保管されていた桃介の遺稿集である「福沢桃介論策集」(大同特殊鋼所蔵:工藤俊之氏複製)が紹介されていたことである。これには国会議員桃介の予算委員会での舌鋒鋭い質疑応答記録など、極めて貴重な新発見資料が含まれており、昨年、大同特殊鋼100周年記念事業として出版されたその解題本「天馬行空大同に立つ」(世界書院)と共に紹介された。

(寺澤 安正)